情報公開文書

2023 年 1 月 19 日作成

Ver.1.3

初回治療前の歯科手術既往が歯肉扁平上皮癌の予後与える影響に関する後ろ向き観察研究

1、研究の目的と意義

歯肉扁平上皮癌（以下歯肉癌）の特徴として歯肉から顎骨への浸潤に伴う骨破壊により、時として歯肉腫脹および歯の動揺といった歯周炎に類似した所見を呈することがあります。そのため、歯周炎との誤診が生じ、歯肉癌への初回治療前に腫瘍部位の抜歯、掻把といった歯科手術が加わることで腫瘍細胞を播種（ちらばる）させる危険性が指摘されています。

本研究では歯肉癌において初回治療前に腫瘍部位への歯科手術の既往の有無で治療経過および予後に与える影響について検討を行うこと計画しました。歯周炎と酷似した所見を呈することもあり誤診を防ぐことは非常に難しいです。そのため今回の研究結果により、どの程度治療経過（局所頸部制御、遠隔転移制御）および治療経過に影響を与えるか明らかになれば、より適切な術後補助療法を選択することが可能となり、今後の口腔外科診療へ貢献できると考えます。

2、対象となる患者さん

2008 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日に長崎大学病院　口腔外科で歯肉癌に対し NCCN ガイドラインに準じた初回治療を行った患者さん。

3、研究の方法

当院で既存のカルテから症例を集めて、統一した項目の患者情報を収集し、治療方法、治療成績および治療経過について検討します。

4、研究に用いる情報

本研究は診療録より患者情報として性別，年齢，原発部位、cTNM 分類、腫瘍部位の歯科手術既往。病理組織学的所見として分化度、pTN 分類、浸潤様式、リンパ管浸潤、脈管浸潤、神経周囲浸潤、切除断端、節外浸潤、pN 個数、治療および転帰として術後治療の有無、治療経過および経過観察期間および予後について検討を行う研究です。

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

5、研究期間

研究機関長の許可日～2023 年 12 月 31 日

6、外部への情報の提供

該当なし。

7、研究実施体制

本研究は長崎大学病院のみでの研究です。

≪研究責任者≫

長崎大学病院　口腔外科　鳴瀬　智史

≪研究分担者≫

長崎大学病院　口腔腫瘍治療学分野

氏名：古川　浩平

氏名：福嶋　大将

8.お問い合わせ先

長崎大学病院　口腔外科　鳴瀬　智史

〒852－8501　長崎市坂本１丁目７番１号

電話：095（819）7698　　FAX　095（819）7700

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療安全課　095（819）7616

受付時間　　：月～金　　9：00～17：00（祝・祭日を除く）